



## 室内飼い猫

# 室内飼い猫の食餌

室内飼い猫は、過体重や肥満のリスク、下部尿路疾患に罹患するリスクが高く、飼い主は毛球管理にも注意を払わなくてはならないことがあります。室内飼い猫は、固有のニーズに合わせた栄養が有効な場合があります。



## キーメッセージ

- 一般的に、室内飼い猫は活動量が少ないため、カロリー必要量も多くありません。キャットフードのパッケージに記載されている給餌の目安はあくまで「平均的」な猫に向けたものですが、猫には個体差があります。
  - ペットの体重が増減した場合は、給餌量を調整する必要があります。
- おやつは、1日のカロリー摂取量の10%を超えないようにすべきです。
  - おやつは驚くほどカロリーが高いため、おやつを与える場合は、フードの量を減らす必要があります。
- 室内飼い猫が退屈を紛らわすために食べるリスクを最小限に抑えるには、環境面での工夫が役立つ場合があります。
  - パズルフィーダー、羽根付きのおもちゃ、爪とぎポール、キャットタワーなど、環境面で工夫をすると、猫に精神的な刺激を与え、活動量が増加することで体重管理にも役立ちます。
- セルロースや大豆皮などの食物繊維を含む食餌を与えると、毛球を最小限に抑えるのに役立ちます。

体重 4.5 kg  
270 カロリー/日



チーズの小さな1切れ =  
1日あたりカロリー量の15%

## その他のリソース

AAFCO. (2012). *Reading labels*. <http://talkspetfood.aaeco.org/readinglabels> [Accessed 28 July 2020]

FEDIAF. *Understanding pet food labels*. <http://www.fediaf.org/39-prepared-pet-foods/80-understanding-labels.html> [Accessed 28 July 2020]

Laflamme, D. P. (2006). Understanding and managing obesity in dogs and cats. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 36, 1283–1295.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。